

オイル交換時の注意

・オイルは規定量より多くても少なくても悪影響を与えます。入れ過ぎると――

各回転・摺動部の抵抗増大による出力低下、運転中の油温が上昇しオイルの劣化を早めます。

ブリーザーパイプからのオイル洩れ、湿式多板クラッチではクラッチが切れにくくなったり、チェーンドライブに悪影響を与える要因となります。

少な過ぎると――

回転部、摺動部へのオイル供給量が少なくなったり、エンジンの摩擦、焼付き等の要因となります。

・ホンダウルトラオイルは、製造段階で添加剤がバランスよく配合されたオイルです。さらに市販の添加剤を注入すると配合バランスがくずれ、油性が変化し潤滑性能に大きく影響します。ホンダのエンジンには不要です。ご注意ください。

注意

- ・車が傾いていると、オイル量は正確に計れません。
- ・エンジン停止直後の点検・交換は、エンジン本体やマフラーの一部が熱くなっているから火傷にご注意ください。